

外国にルーツをもつ 子どもたち とともに



1 活動のきっかけ

「かにえ子ども日本語の会」は、愛知県西部地域で、外国にルーツをもつ子どもたちの支援活動をしています。

私がこの活動を始めたのは、平成17年に成人の日本語教室でアジアのある国からやって来た女子中学生に出会ったことからです。出会いから数か月後にボランティア団体を立ち上げて、外国にルーツをもつ子どもたちの日本語指導と外国人保護者の支援を始めました。

私は大学時代をアメリカのカリフォルニア州で過ごしました。当時、週末日本語学校で日系アメリカ人の子どもたちの日本語指導をアルバイトでしていました。大学では日本語教育とはまったく違う分野の勉強をしていましたし、日本語なんて日本人だったら誰でも教えることができると思っていて（今考えるとなんて不届きな考え方だったのかと呆れさせますが）、その頃の私は、元氣だけが取り柄の大学生でした。子どもたちと一緒に校庭でボールを蹴って遊んでばかりいるような先生でしたが、そこでの単なるアルバイトの経験が今の支援活動につながっていることに、何か目に見えない縁を感じます。

2 地域での日本語指導について

私たちが支援している「外国にルーツをもつ子ども」とは、両親ともに、あるいは両親のどちらかが外国出身という子どものことです。例えば、母親がブラジル人、父親が中国人という家庭の子どもは、学校では日本語、家庭ではポルトガル語と中国語といった複数の言語間

を行き来しています。そのような家庭環境の子どもたちが、学校の勉強に遅れを取らずについていけるように、「かにえ子ども日本語の会」は微力ながら、日本語指導を必要とする子どもたちの役に立ちたいと思っています。

会設立の平成17年当初は、支援者二人だけで細々と小学校1校で日本語指導をしていましたが、ある日教育委員会に非常に理解のある方が現れ、私たちを日本語指導補助員として採用してくださることになりました。現在は、支援者10人で小学校5校と中学校3校で指導しています。

また、平成20年には協働まちづくりモデル事業に応募して、保育所で年長児対象の就学前教育（プレスクール）を実施することになりました。それ以降、継続事業として現在では四つの保育所でプレスクールを行っています。今年は、プレスクール一期生が高校受験を迎える年になります。

3 最近の活動について

平成27年に私たちは法人格を取得して、ボランティア団体から一般社団法人となりました。その年は会設立10周年という節目の年だったため、「地域に生かすプレスクール」と題してシンポジウムを開催しました。

平成28年は、外国人住民を対象にした「防災セミナー」を実施しました。セミナーでは、「高台に避難してください」ではなく、「高いところに逃げてください」という「やさしい日本語」で伝えれば、日本語が分からない外国人の命を救うことができるということを勉強しました。「やさしい日本語」と手話は作り方の構造が似ているた

日本語教室での出会いをきっかけに、外国にルーツをもつ子どもたちの支援活動を始めました。保育所、小中学校での子どもの日本語指導だけでなく、地域の外国人・日本人住民対象の防災セミナー、軽食を提供する教室、宿題の指導など、さまざまな支援を行っています。今回はその活動の様子を紹介します。

め、セミナーでは、例えば「食料の配給はあちらです」を「やさしい日本語」と手話で学びました。また、最近急増しているイスラム文化圏出身の人たちにも食べられる「ハラール」と呼ばれる豚肉やアルコール等を使っていない防災食も会で調理して提供しました。



外国にルーツをもつ子どもたちは、夏休みや冬休みなどの長期休暇のとき、保護者が深夜勤務や早朝勤務で不在がちとなり、生活や食事時間が不規則になってしまふことが多いため、平成28年の夏休みと冬休みに軽食を提供する教室を開きました。

夏休み教室は、子どもたちが毎年秋風が吹き出す頃まで宿題をためてしまうことを改善するため、宿題をメインにした指導にしました。教室では、夏休みの間毎日こなさなければならない日誌、読書感想文、標語付きのポスター、習字、工作、家庭科作品作りなど、夏休みに出されるすべての宿題を仕上げるようにしました。

子ども一人ひとりを指導するためには私たちの会の支援者だけでは足りなかったもので、大学生にもボランティアで来てもらいました。私たちの願いは、今支援している子どもたちが、いつの日か支援者となって戻って来てくれることです。

愛知産業大学短期大学准教授
一般社団法人かにえ子ども日本語の会
代表理事
支援教育専門士

かわ さき なお こ
川崎 直子



4 多文化共生社会をめざして

近年の日本は、国際化という言葉だけではひとくくりにはできないほど多様な文化背景をもつ人たちが増えました。彼らは観光客ではなく、日本に根を下ろして地域住民として暮らしている人たちです。私たちはたとくお互いの違った面への目を見えがちなですが、違いは違いとして認めつつ、共通項をたくさん見つけて、日本人と外国人が地域社会で共に生きていくことが望まれます。

今後、今以上に外国にルーツをもつ人たちが増える日本社会は、多文化社会になっていくでしょう。しかし、共生するためにはお互いの努力が必要になってきます。私たちの会は、多文化共生社会の担い手となる次世代の子どもたちに、バトンをしっかりと手渡せるような活動をしていきたいと思っています。

一般社団法人かにえ子ども日本語の会HP
<https://kaniekodomo-nihongo.jimdo.com/>